

IGS理事会報告

2022 第 2 回理事会報告

防衛大学校システム工学群 宮田 喜壽
エターナルプレザーブ 久保 幹男

1. はじめに

国際ジオシンセティック学会（IGS）における 2022 年理事会が令和 4 年 9 月 8 日 EuroGeo7 に引き続きポーランドのワルシャワで行われた。会議にはオンライン参加 6 名を含め約 20 名の参加者があり、久保は現地で、宮田はオンラインで参加した。本文では、令和 4 年 7 月 7 日に開催されたインフォーマルミーティング、9 月 6 日に開催された特別総会の内容を含め、最近の IGS 理事会に関する主要な内容を報告する。

2. 理事会選挙結果と全体会議の内容

IGS 理事会は、会長、副会長、前会長、理事により構成される。会長と副会長ならびに理事の約半数は 4 年に一度の国際会議の開催のタイミングに合わせて会員の選挙で選ばれ、残りの理事は 2 年ずらして選ばれている。今回の選挙は会長、副会長も選挙の対象であった。

まず会長にはアレン氏（Allen、米国）、副会長にはザンノーニ氏（Zannoni、南ア）が選出された。理事には「elected」「co-opted」「invited」の 3 種類があり、「elected」は任期 4 年で他は 2 年である。また、「invited」には理事会での投票権は与えられていない。2022 年の選挙では、8 名の「elected」枠に 19 名が立候補した。日本からは筆者のうち久保が立候補し、無事選出された。他の当選者の地域別の内訳は、欧州 3 名、北米 2 名、アジア 2 名だった。理事会にアフリカ出身がいなくなり、アジア出身が増えた。以上の内容が、7 月のミーティングで報告された。

9 月の理事会の議題の最も重要な点は、この選挙結果の確認と、「co-opted」と「invited」理事の選出である。結果的に、「co-opted」理事に 5 名（アジア 2 名）が、「invited」理事に若手技術者委員会委員長、アフリカ地域会議実行委員長、そして IGS 基金委員長を含む合計 5 名が選ばれた。そのうえで、カルボーン氏（Carbone、独）が幹事長に、ハン氏（Han、米）が経理担当理事に就任した。

全体会議でなされた報告および決定事項で主要なものは以下のとおりである。

- ・アレン会長は以下を今期の目標として示した。
 - 1) 技術委員会活動の強化・最適化
 - 2) 最新の教育ツールによる知識の共有化
 - 3) 持続可能な開発に対するジオシンセティックスの役割の広報
 - 4) 会員との交流
 - 5) 若手会員の増加
- ・今期も財政は健全の見込みであることが報告された。
- ・事務局長を常設とする。
- ・スロベニア支部を発足させる。近く、エクアドル支部も設立の見込み。
- ・2025 年のアジア会議はブリスベン（オーストラリア）、欧州会議はリール（仏）で開催する。

3. 小会議

アレン会長より戦略計画が提示され、4つのワーキンググループより以下の議論の内容が報告された。

1) WG1：影響力

- ・政策担当者や規定作成団体等に対し、ジオシンセティックス技術にする設計、材料の耐久性、低炭素社会への貢献など、アピールしていくことが重要である。
- ・Fed IGS（地盤に関する国際学術団体の共同体：国際地盤工学会、国際岩の力学学会、国際応用地質学会、IGS とで構成。）の枠組みのなかで、多学会と共同・協賛的な活動を行う。
- ・技術委員会はジオシンセティック関係者以外も惹きつけるようなワークショップを企画するなど、活動の質を変えていくことが望ましい。具体的テーマとして、持続可能な道路設計と建設などが考えられる。

2)WG2：信頼感

- ・ジオシンセティックスに関するハンドブックの編さん、ジオシンセティックスを用いる際の炭素排出量を計算するための原単位表の作成を検討する。
- ・ジオシンセティックスに関する技術者資格認定プログラムを検討する。必須の教材として、a 技術者倫理、b ジオシンセティックスに関する標準、c ハンドブックがあるだろう。

3) WG3：要望（会員サービスと成長）

- ・個人、コーポレートメンバーを増やすことを検討する。特に中国、インドのコーポレートメンバーを増やす取り組みが重要。
- ・多様性のある健全な支部運営が重要。特に、20名以下の小さな規模の支部運営に力を入れる。
- ・学会を、設計者や規格・基準を定める方々へも広げることが重要。
- ・IGSも、男女共同参画を推進し、女性のキャリアアップ推進を後押しする。
- ・若手会員の獲得を検討する。技術委員会への参加、ワークショップの運営、各種IGSイベントへの参加などで活躍してもらうようにする。

4) WG4：持続可能な組織（財政が健全で産業界に根を張った存在になるため）

- ・ノルウェー支部は政府関係者も参加している。その活動内容は大変参考になる。
- ・技術委員会の多様性及び問題解決能力を向上させることが望ましい。
- ・ジオシンセティックスの施工に関する技術委員会の設立を検討する。
- ・収支状況を把握しバランスさせるよう努めることが大事。第12回国際ジオシンセティック会議の前までに会費の変更も検討していく。1984年にIGSが開始されて以来、会費は据置き（コーポレート会費US\$2400）のままであるが、昨今のインフレに加え、45支部の運営、2つのジャーナルの出版、包括的デジタル図書館の運用など活動が多岐に渡るようになってきたことが背景にある。

4. おわりに

次回の理事会はオンラインで12月初旬に予定されている。新会長のもと、新しい活動がスタートし、対面での行事も増えつつある。国際のニュースを皆様にお伝えすると同時に、我が国の活動もアピールしていきたい。